

令和4年度 学校教育評価 結果と考察

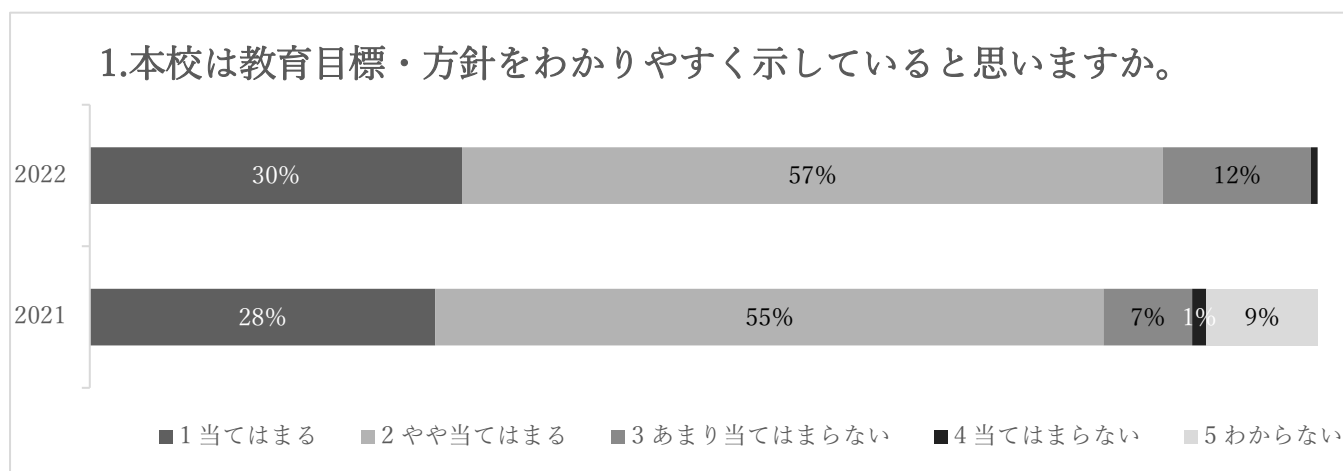
座間市立相武台東小学校
校長 浜田 佐織

本年度12月に保護者と児童を対象に、相武台東小学校の学校教育に関するアンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。その結果と考察をご報告いたします。

なお、保護者アンケートについては、回答方法を変更（5 わからないの回答をなくした）のため昨年度の結果とは単純比較はしていませんのでご了承ください。

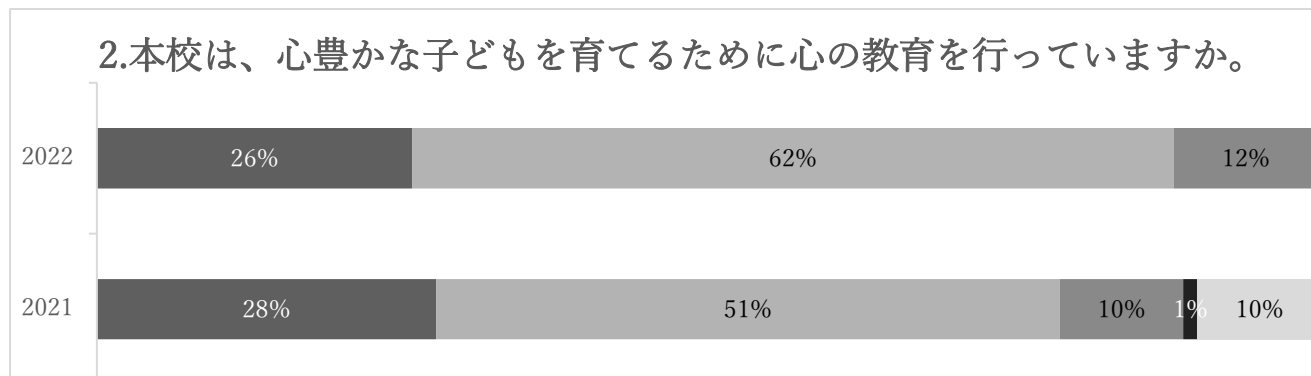
《保護者アンケートより》

◇学校経営方針に対する、保護者への周知と理解についての設問です。



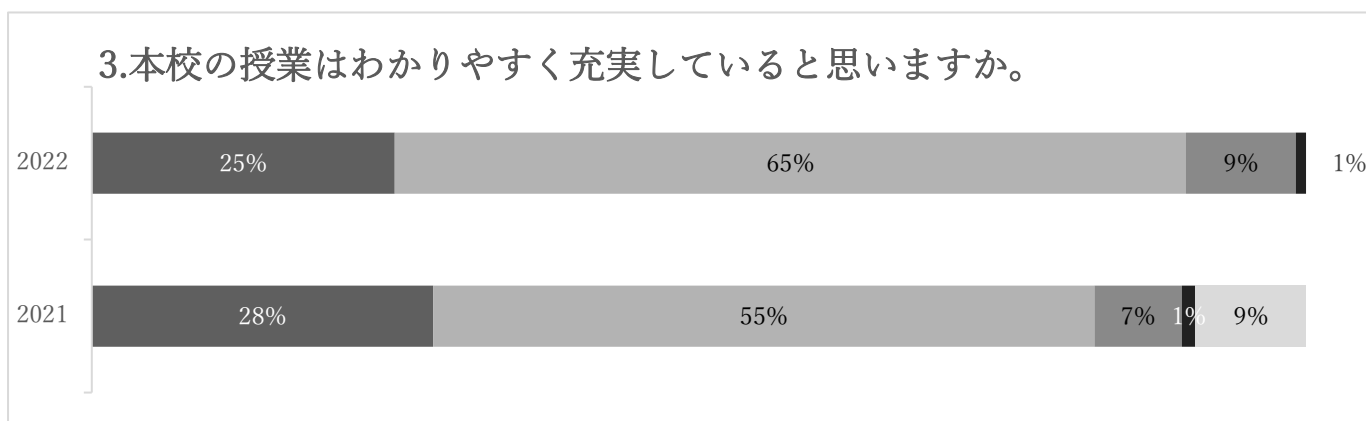
全体としては、肯定的回答率（87%）と一定の評価を受けています。学校ホームページや校長室だより、学校だより等を通してお伝えしてきたことの結果と受け止めるとともに、今年度からスタートしたコミュニティ・スクールの中でも地域の方々や保護者に、より丁寧に教育目標や方針について示していきます。

◇本校教育目標でもあり、座間市教育施策の大きな柱でもある「心豊かな子どもの育成」についての設問です。

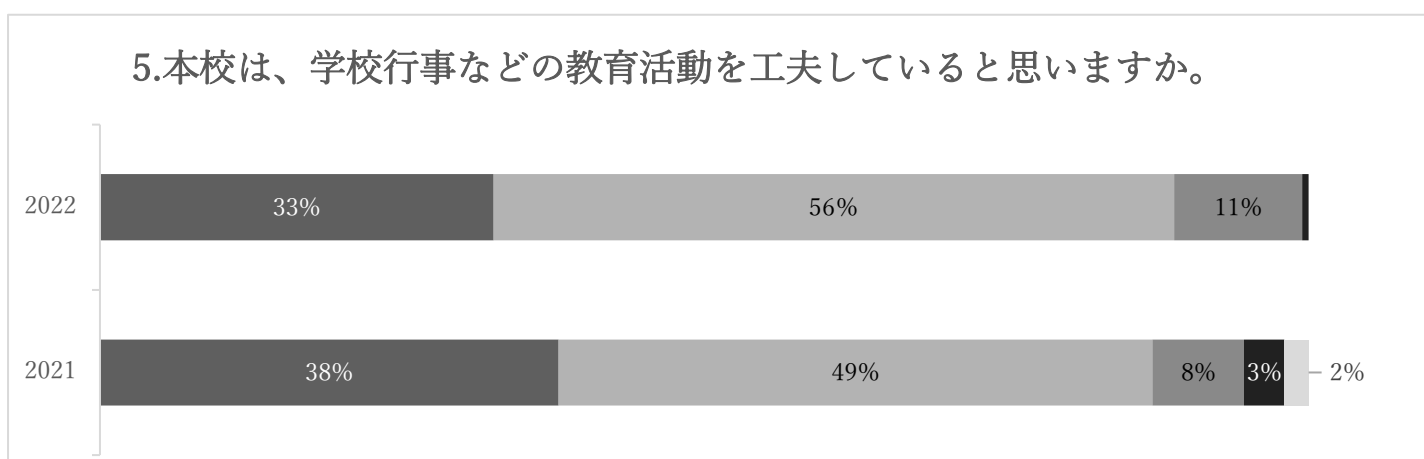


コロナ禍も3年となり、経験を重ねる中で、コロナ禍であっても学校の創意を生かした体験活動や交流活動を工夫しながら進めることができおり、肯定的回答が9割近くという評価を得ています。今後も教育課程全般で実体験や交流活動を重視した創意を生かした取組に努め、子どもたちの豊かな心の育成を継続していきます。

◇児童にとって効果的な授業ができているかを問う設問です。

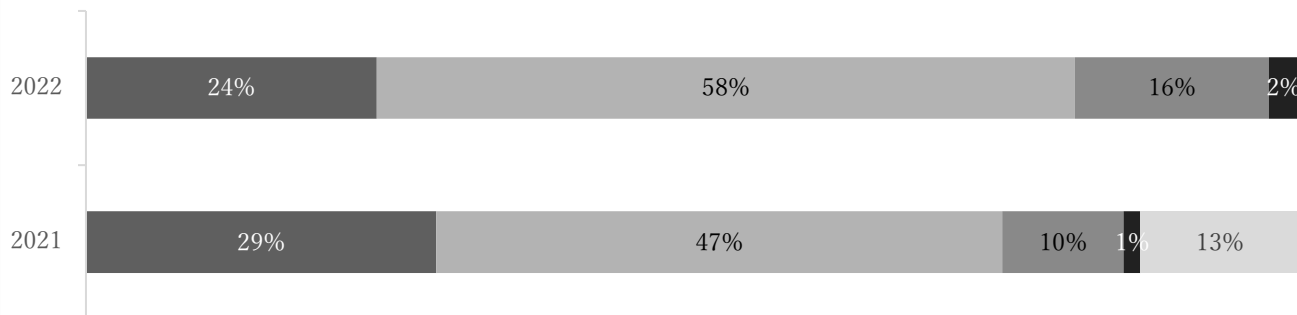


わかりやすい授業については、肯定的回答が9割という嬉しい結果となりました。本校では学習指導要領に示されている主体的、対話的で深い学びについて5年以上継続して全職員で研究を進めています。その成果のひとつと捉え、今後も校内研究を中心に、学校全体で授業改善と充実に取り組んでいきます。



今年度は5年キャンプや6年修学旅行など泊を伴う行事を行うことができ、水泳教室やバス遠足等も3年ぶりに実施することができました。また、学校行事もオンラインと対面とのハイブリッドで両方の良さを活かしながら、教育活動を進めることができるようになってきました。評価結果からは、そういったことを評価していただいている一方で、「まだまだ工夫の余地がある」との声も感じられます。今後も保護者や地域・コミュニティ・スクールの皆様の声なども聞きながら、さらに子どもたちが生き生き学び成長できる学校を目指し、工夫改善に取り組んでいきます。

7.学校内の教育機器が整備され有効に教育活動に利用されていると思いますか。



GIGA スクール構想により一人一台の学習用端末が配付されてから、2年が過ぎようとしています。この間、授業や教育活動の中での学習用端末をはじめとした ICT 機器の活用は確実に進んでいます。今回の肯定的回答が8割を超えることはそういった取組の評価と捉えています。

さらに、これからは情報リテラシー教育にも力を入れながら、学びのコミュニケーションツールとしての ICT 機器の活用や、発達に課題がある子どもたちの支援的ツールとしてのより良い活用をめざしていきます。

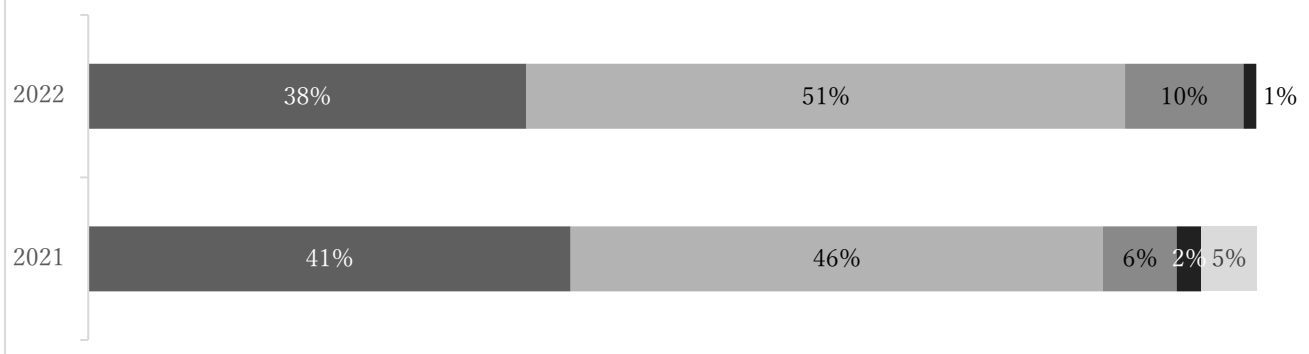
◇教職員の、児童や保護者に対する向き合い方や連携についての設問です。

4.本校は、保護者や地域の方々との連携を重視した教育を行っていると思いますか。

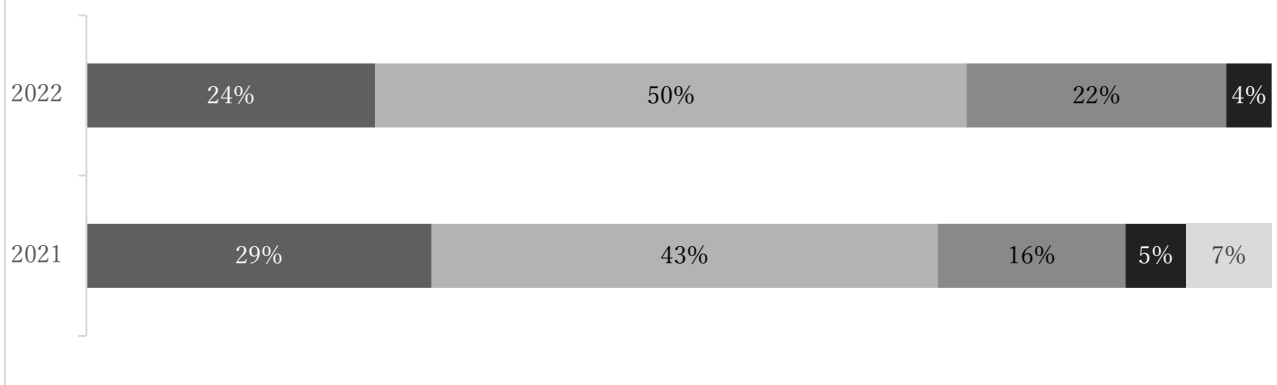


肯定的回答は9割を超えていますが、最も肯定的な回答が前年より減っている点が残念です。今年度はコミュニティ・スクールの開始にあたり、より保護者や地域の方々との連携を目指し話し合いを重ねています。まだ、取組に移せていない面もありますので、次年度はさらに連携を深めながら教育活動を展開していきたいと思います。また、そうした取組や活動をより多くの方に知っていただけるような情報発信を模索していきたいと考えています。

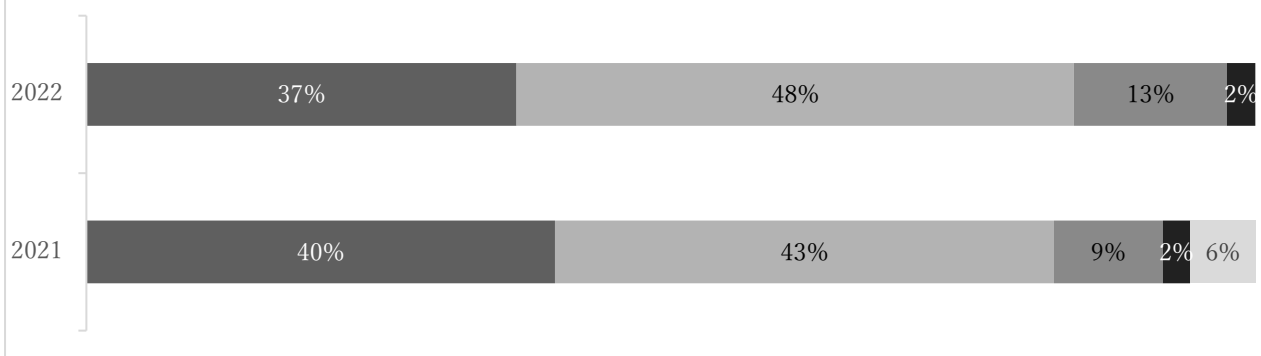
6.教職員は、児童一人ひとりを大切にしていると思いますか。



9.学校に要望や意見を知らせやすいと思いますか。

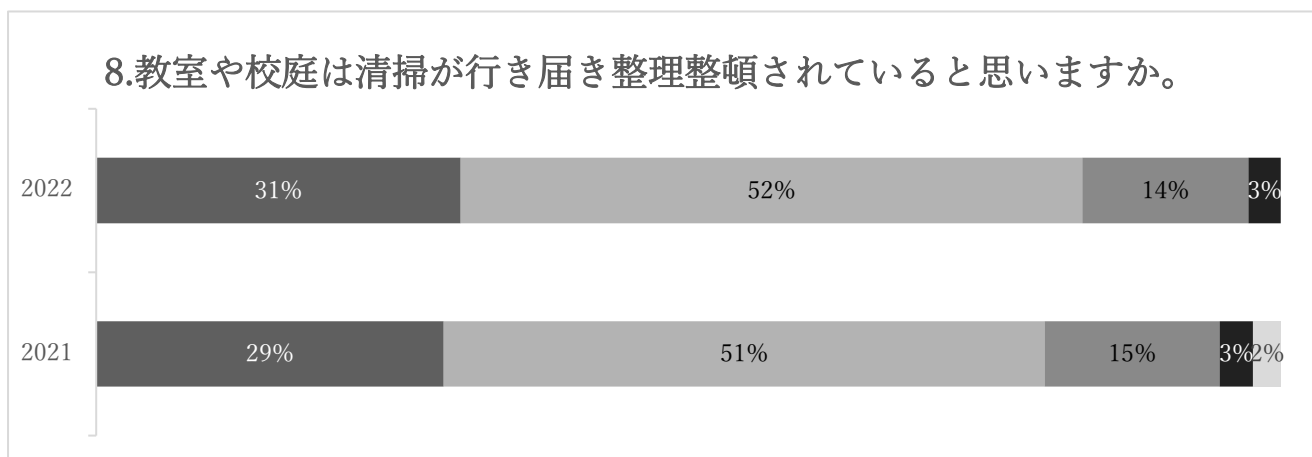


10.教職員は、何でも相談できる雰囲気がありますか。



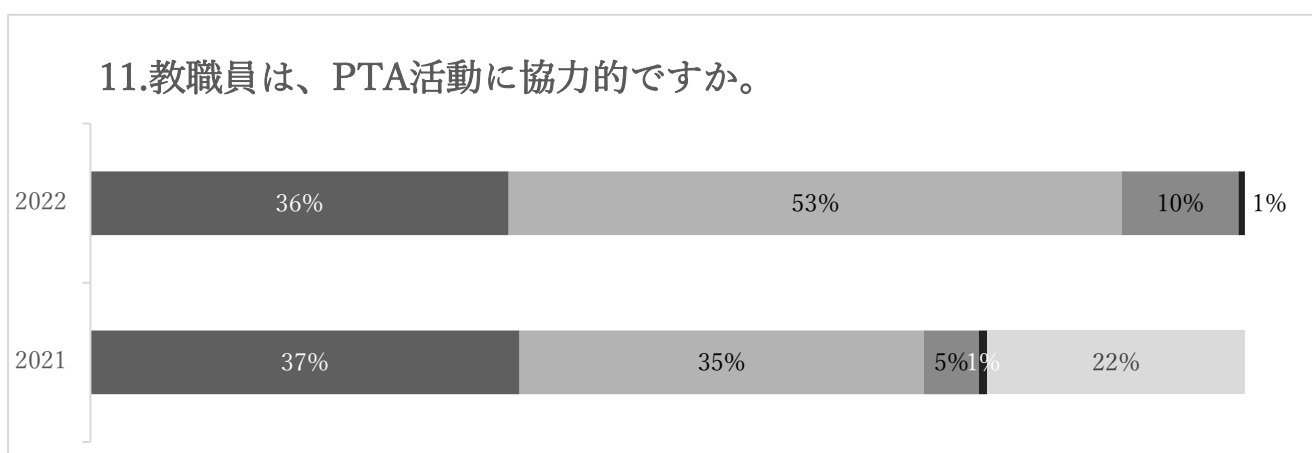
6・9・10 の設問のどれにおいても肯定的回答は上昇傾向にありますが、最も肯定的な回答はやや減少しています。児童も保護者も、コロナ禍という大きな困難を抱えながら日々を過ごす状況にあります。また、発達障害等の個別の支援を必要とする児童も通常級で8%を超える割合で在籍するという国の調査結果もあります。スクールカウンセラーや教育相談コーディネーターの活用や学校での教育相談態勢の充実や個に応じた指導等に取り組んでいくとともに、次年度は相談週間を設け、子どもの悩みや保護者の悩みや困り感により、きめ細やかに対応できるよう取り組んでいきます。いつでもどの職員にでも、声をかけやすい場面で遠慮なくご相談ください。

◇環境整備状況についての設問です。



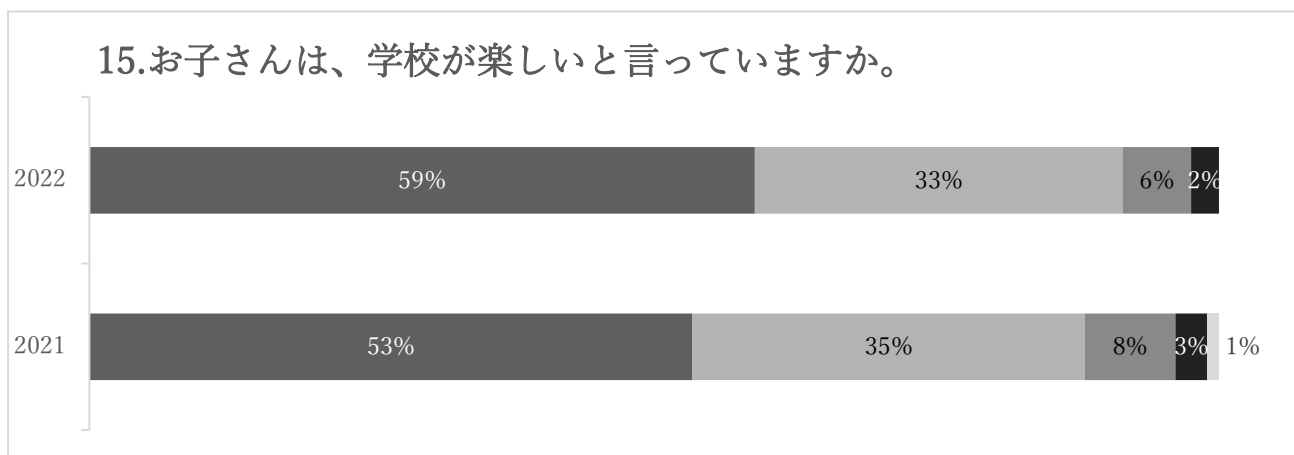
この設問については年々肯定的回答が増えています。コロナ禍にあって、日々の清掃や消毒を教職員と児童で丁寧に行ってきたこと、また業者による定期的なトイレ清掃や床清掃が行われるようになってきたこと、さらには PTA による校地内外整備等を行ってきたこと、これらにより衛生的で整った教育環境が整備できています。ご尽力に感謝しながら、安全安心な教育環境づくりを継続していきます。

◇教職員の PTA 活動への参加姿勢についての設問です。

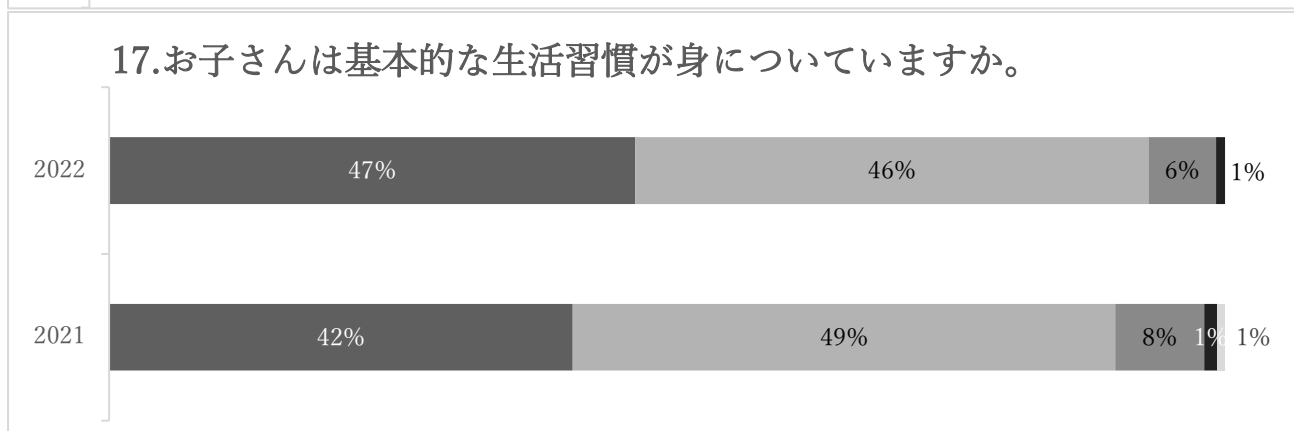
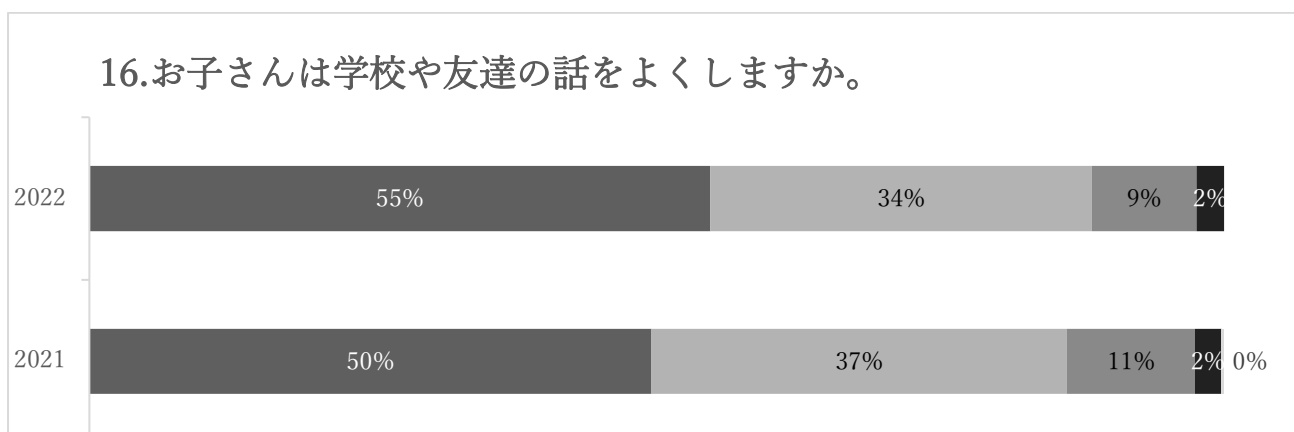


肯定的回答は 9 割近くとなっており、一定の評価を得ています。一方で教職員の長時間労働や働き方が問題となる中で、勤務時間外の PTA 活動に、教職員がこういった形で協力ができるか難しい点があります。PTA 活動自体も保護者負担を減らしながら、子どもたちのより良い成長につながる活動の在り方を模索していく必要があります。

◇家庭でのお子さんの様子についての設問です。

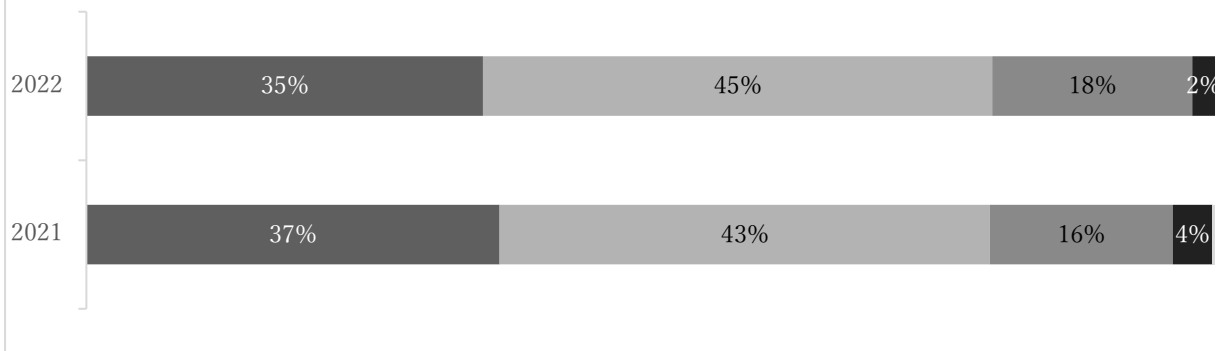


最も肯定的な回答が6割近く、肯定的回答は9割を超える嬉しい結果となりました。コロナ禍初期ではコミュニケーションが難しいことや子どもたちが楽しみにしていた学校行事が中止や変更を余儀なくされていましたが、経験を重ねる中でオンライン等も利用したコミュニケーションや、感染対策を施した上での工夫した学校行事等の実施ができるようになり、そのことが、子どもたちの学校生活の楽しさにつながったと捉えています。学習活動はもちろんのこと、日々の生活や行事等、すべての教育活動の中で、一人ひとりが居心地良く過ごせる工夫を継続していきます。また、児童にもより良い学校生活にするために、主体的な行動ができるよう、指導・支援をしていきます。



この2つの設問に対しては、肯定的回答が9割程度の高評価となっています。家庭での会話や基本的な生活習慣が定着し、安定した生活をおくれている児童が多いことがうかがえます。家庭での生活習慣は、充実した学校生活をおくる基盤となるものです。ご家庭での習慣作りのおかげであることに感謝し、学校でも指導・支援を継続していきます。

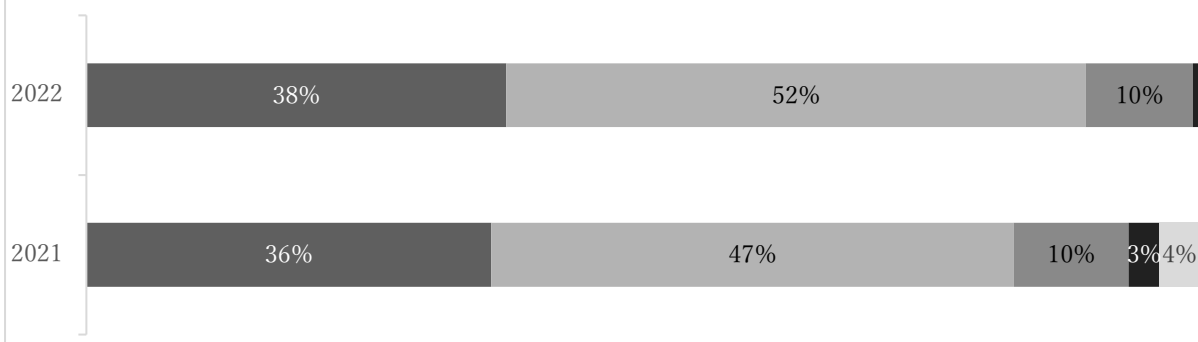
18.お子さんは家庭学習の習慣が身についていますか。



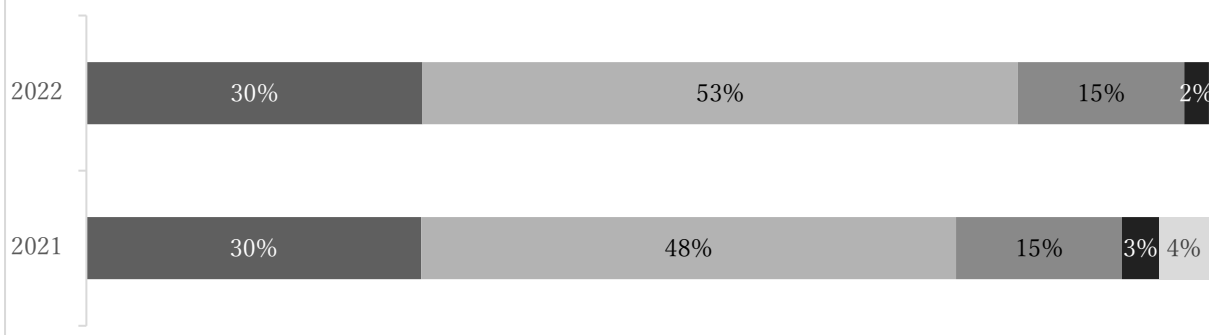
家庭学習の習慣は8割程度の児童が習慣化されていることがうかがえます。これまで本校では、各学期に家庭学習取組週間を設けていましたが、本年度から、これを改め年間通して家庭学習に取り組めるよう促しています。効果が表れるにはもう少し時間が必要かもしれません。良い取組等を学校でも紹介し合いながら、自分のペースで自分の課題に取り組める家庭自主学习を進めていきます。

◇保護者の学校教育への関心についての設問です。

12.学校の行事に積極的に参加していますか。



14.PTAに協力的ですか。



12・14の設問については肯定的回答が増えました。これは今年度、学校行事やPTA活動がさまざまな工夫をしながら実施できたことによるものと捉えています。学校行事に関しては感染対策を施しながらも、保護者にできるだけ参観・参加していただけるよう工夫してきたことの結果と嬉しく受け止めています。PTA活動については、保護者に過度な負担をかけないよう活動内容も精選を図っています。今後も子どもたちのより良い成長につながる活動の在り方を考えながら進めていきます。

13.学校からのたよりやホームページには、目をとおしていますか。



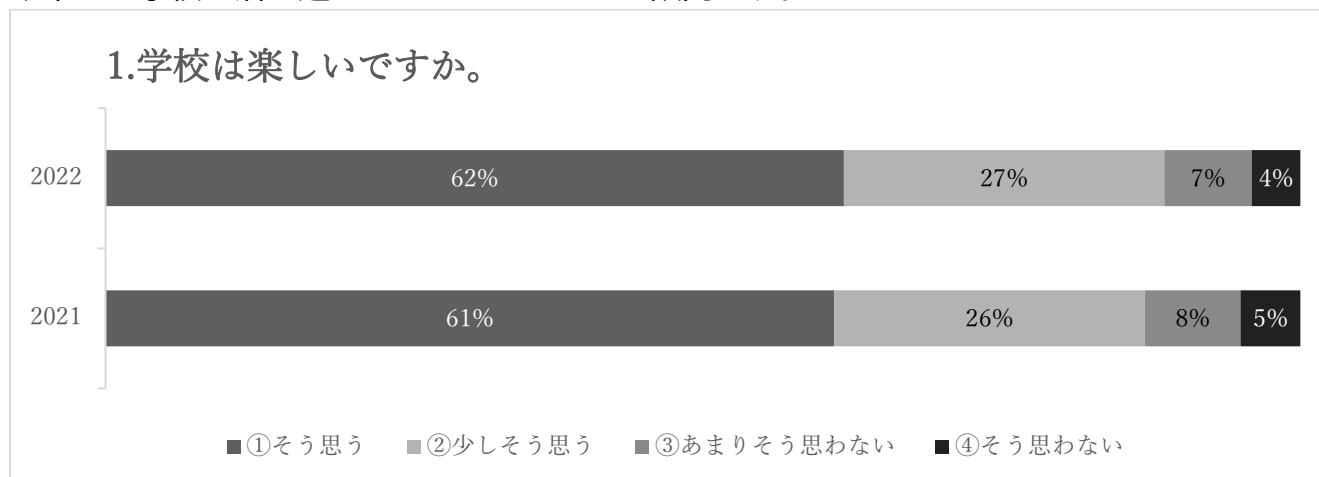
13の設問、おたよりやホームページの閲覧も9割を超える肯定的回答をいただいています。学校ホームページはアクセス数が年々増え、現在は一日平均約2,000件を超えるアクセスがあります。教育活動の内容や児童の様子、迅速な教育情報の提供にホームページは欠かせません。おたよりについては、データでなく紙媒体を希望する保護者も多く、現在は紙とデータを必要に応じて使い分けて配付しています。これからもさまざまな家庭や地域の方々、関係する皆様に学校を理解していただき、共に学校づくりに参画していただけるよう、情報発信に努めていきます。



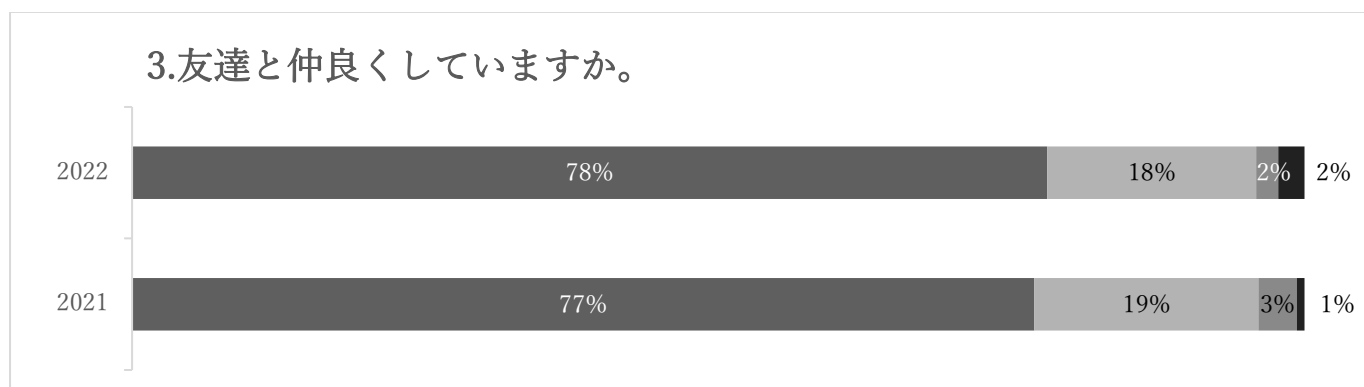
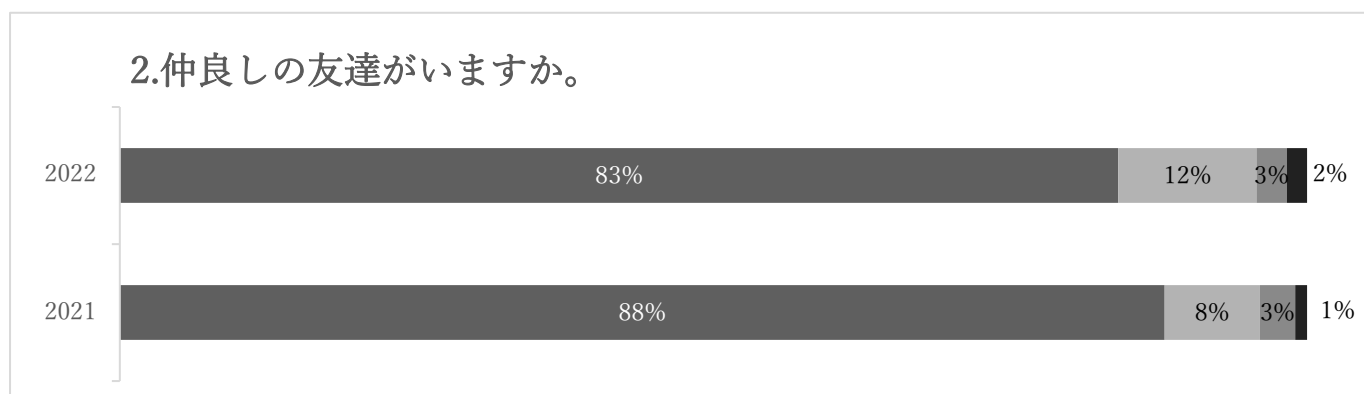
50thAnniversary キャラクター「ひまスター」

《児童アンケートより》

◇楽しい学校生活が遅れているかについての設問です。

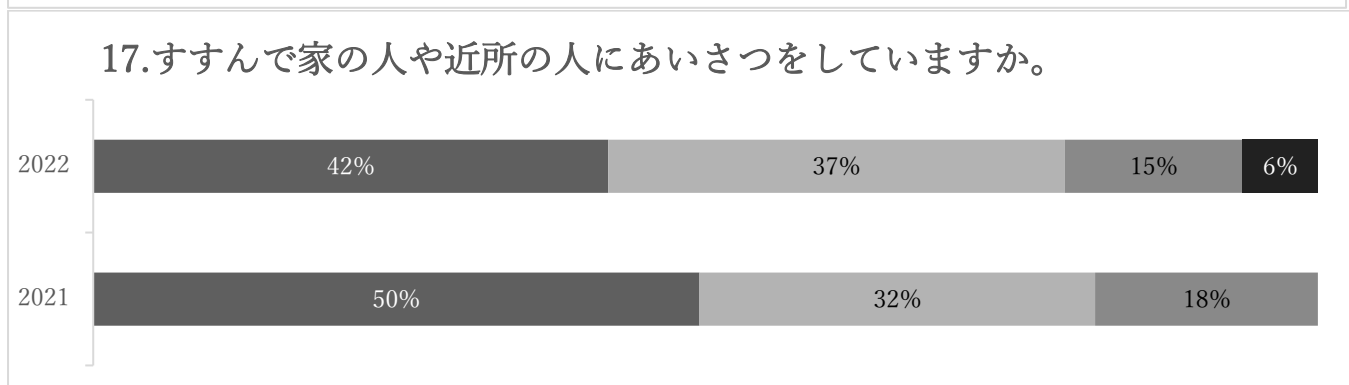
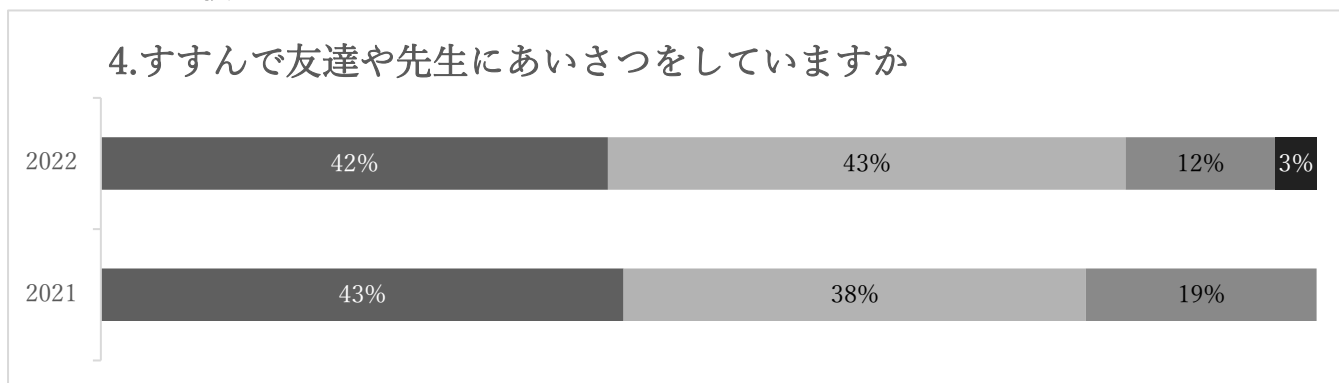


昨年度と同程度の肯定的回答率（88%）でした。今年度は泊を伴う修学旅行・キャンプ等をはじめ、様々な行事を工夫して実施することができました。さらに全校で子どもたちが交流する行事も児童会等を主体として開催できました。学習活動はもちろんのこと、日々の生活や行事等、すべての教育活動の中で、一人ひとりが居心地よく過ごせる工夫を継続していきます。また、より良い楽しい学校生活をおくるために、児童が主体的に行動できるよう、指導・支援を継続します。



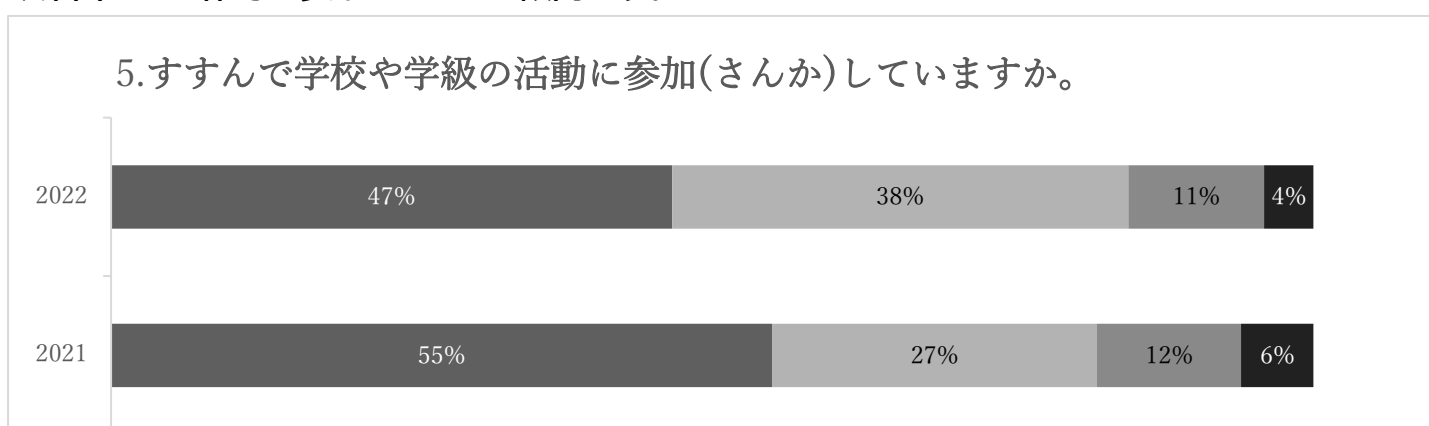
友達関係については例年同様に、肯定的回答率が大変高い結果（95%以上）となっています。本校では児童相互の「学び合い」を取り入れた授業づくりや、互いを認め合う学級づくり等を進めています。また、道徳教育等を通して、友達と仲良くすることの大切さを自分事として考える機会多くもっています。この設問への肯定的回答の高さはこういった取組の成果と捉えています。友達との安心できる人間関係は楽しい学校生活の土台となるもので、今後も取組を継続していきます。

◇あいさつを積極的に行えているかについての設問です。



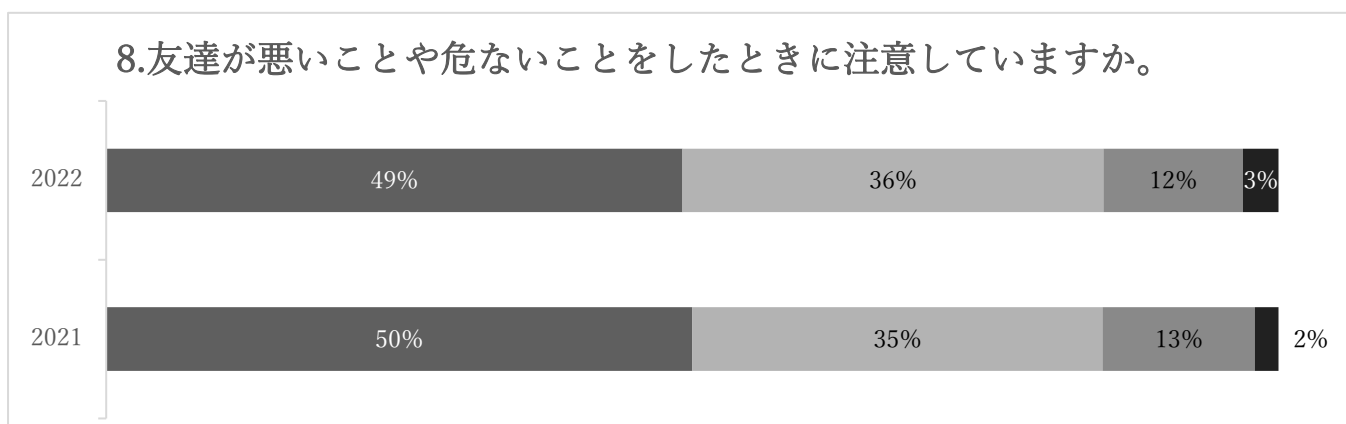
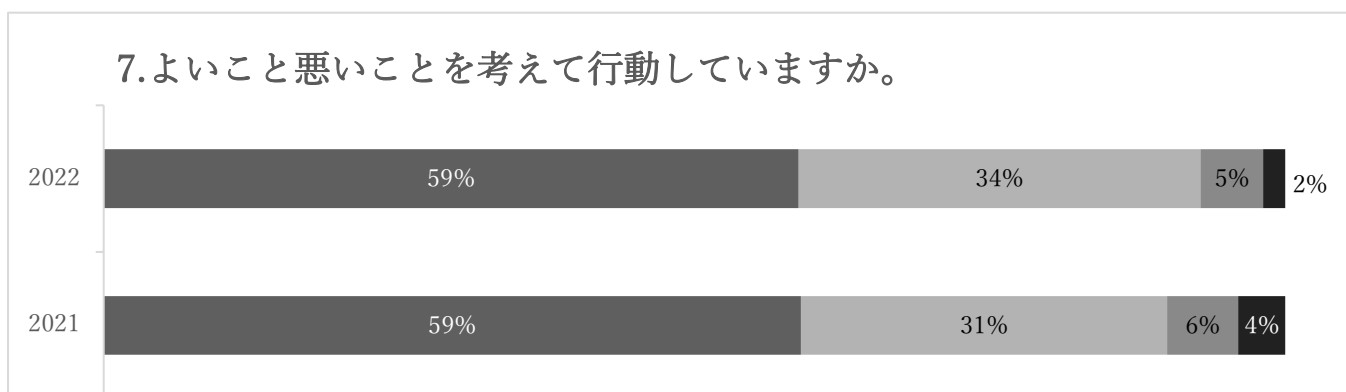
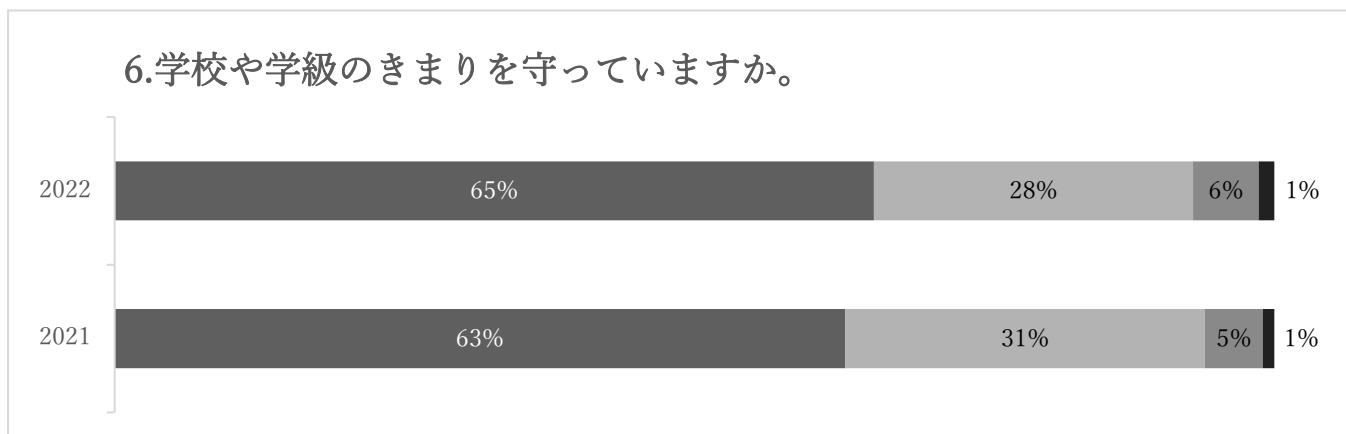
あいさつに関しては、進んでできているという肯定的な回答が80%を超えています。校内では児童会があいさつを呼び掛けたり、校外では校長・教頭が毎朝、教職員はあいさつ運動日に、通学路に立ち、あいさつをかけるなどしたりと、意識化・行動化に努めています。コロナ禍のマスク生活で互いの表情が読み取りにくい中で、あいさつが人間関係に果たす役割は大きいと考えます。あいさつで得られる円滑なコミュニケーションを子どもたちに実感させながら、あいさつがより響きあう相武台東小にしていきたいものです。さらに地域でも学校でも、大人が手本を見せ、あいさつ運動を広げていける良いと思います。

◇集団への主体的な参加についての設問です。



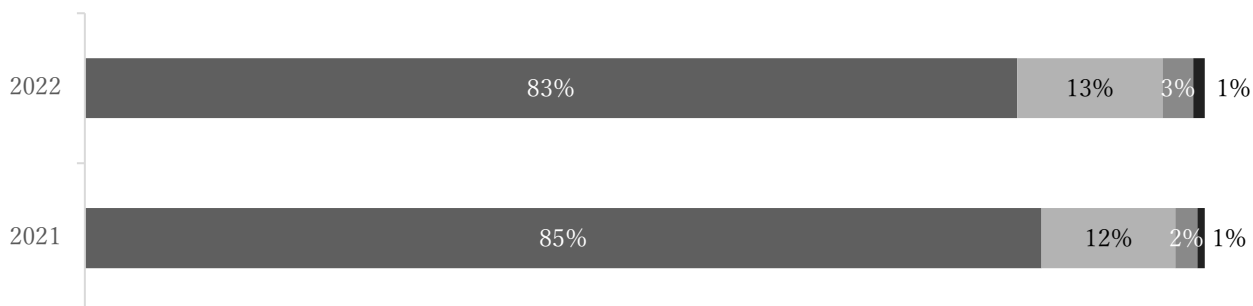
本校では、一人ひとりが居心地の良さを感じながら、主体的に活動できる集団(学校)づくりをめざしており、とても大切な設問です。8割を超える肯定的な回答が得られており、学校の中でも主体的な活動が展開されている結果と捉えます。集団の中で自らを活かし主体的に関わっていくためには、受け皿である集団の在り方が問われます。思いやりの心を基盤とする、他者受容や多様性を受け入れる集団作りを進めることが欠かせません。また、主体的に行動したことによる満足感・充実感を味わえるよう、意図的に教育活動を進めていくことも必要です。この集団づくりや場づくりを今後も学校全体で継続して進めていきます。

◇規範意識や責任意識についての設問です。

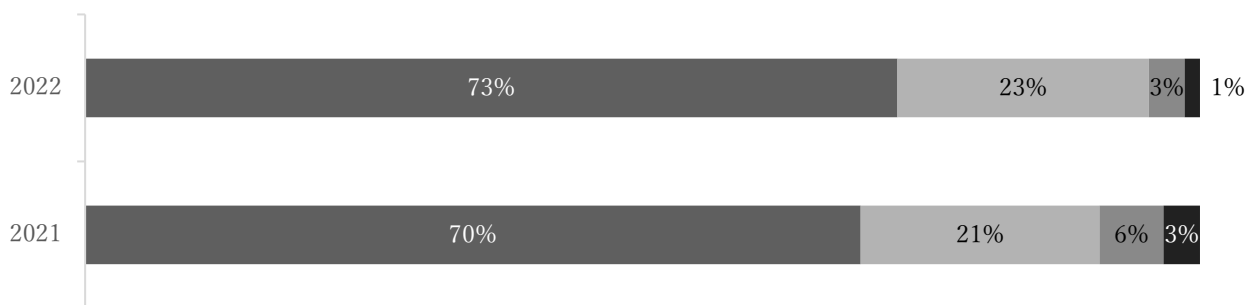


規範意識に関しては、ここ数年継続して肯定的回答が90%を超えています。規範意識が児童に浸透し、定着していると捉えています。学校や社会生活では、規範意識を持ち行動することが欠かせません。相武台東小児童が安定した生活を送れているのも、子どもたち一人ひとりがこの意識をもって行動できているからです。今後も家庭と連携しながら、日々の生活の中で場面に応じ具体的に考え行動できるよう指導していきます。設問8については実行することは簡単なことではなく、様々な葛藤が心の中で生まれます。児童のこのような気持ちを理解したうえで、公德心の価値を実感させ、仲間と共により良い生活を自分たちでつくっていかうとする意識を育てていきたいと思ひます。

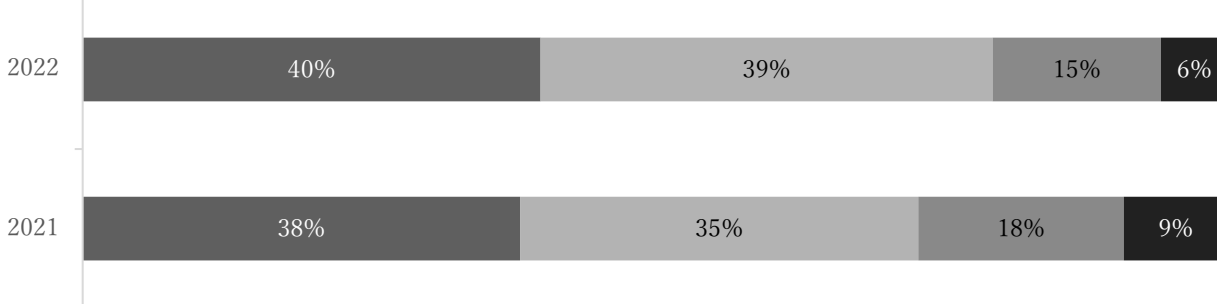
9.掃除当番や給食当番をきちんと行っていますか。



10.係や委員会活動の仕事をきちんと行っていますか。

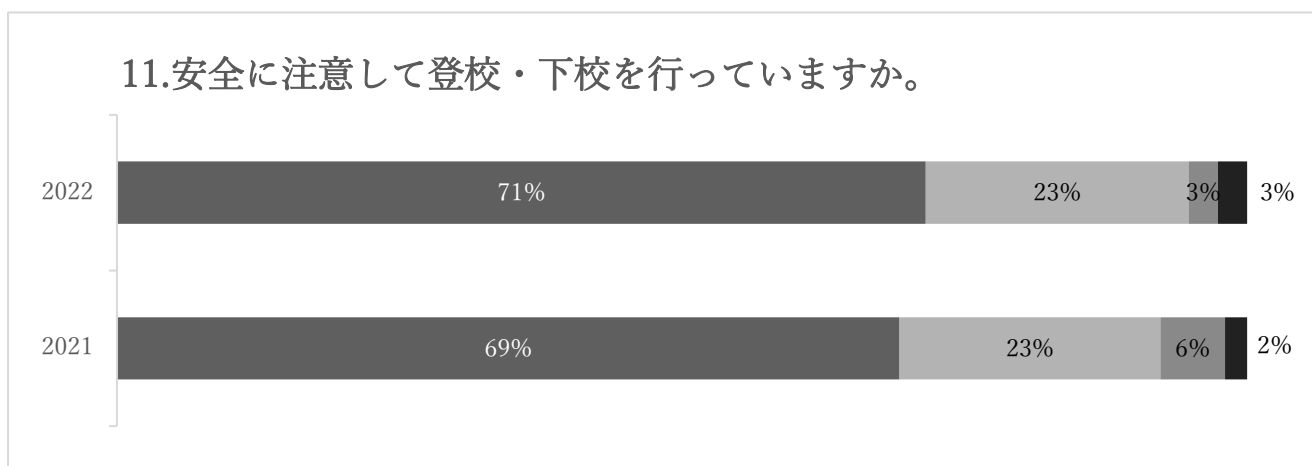


18.すすんでお手伝いをしていますか。



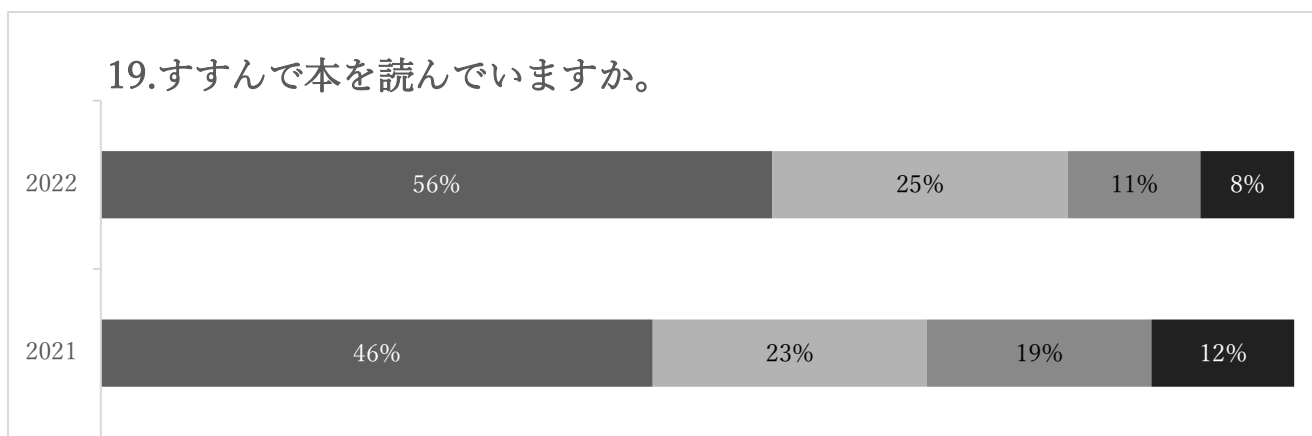
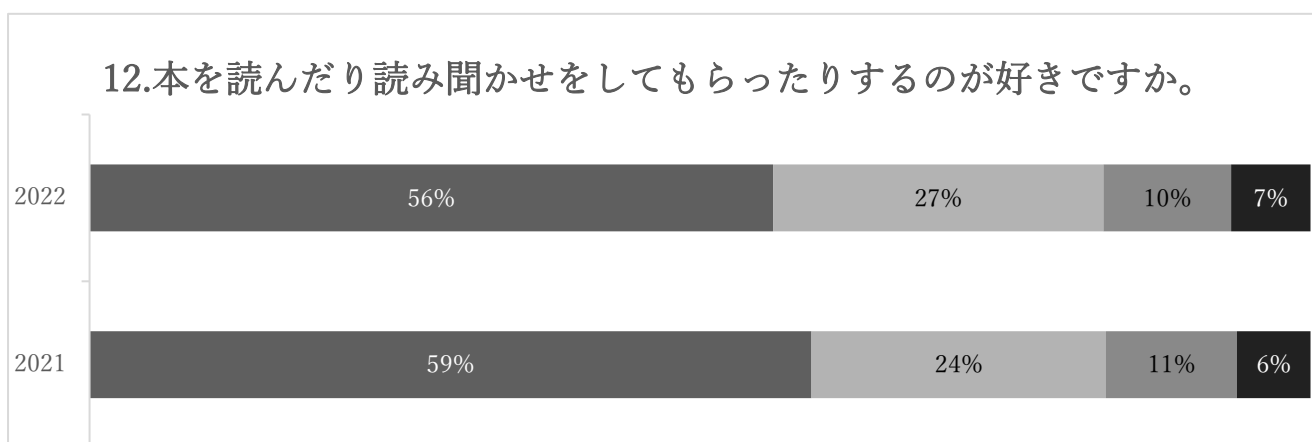
設問 9・10・18 は所属集団での働きや貢献を問う設問です。自分の所属する集団が、生き生きと生活を営むうえで、欠かせない意識や行動です。子どもたちはより学校で、この意識をもちながら行動していることがうかがえる結果となりました。学校での当番活動や委員会活動は「義務や責任を果たす」といったこと以上に「主体性を育てる」あるいは「自分は役に立っている」「誰かのためになっている」という自己有用感を育てるといった点でも、非常に大切であると考えます。今後も感謝や承認のことばを伝えながら、主体的に取り組めるよう進めていきたいと思えます。

◇登下校の安全意識についての設問です。



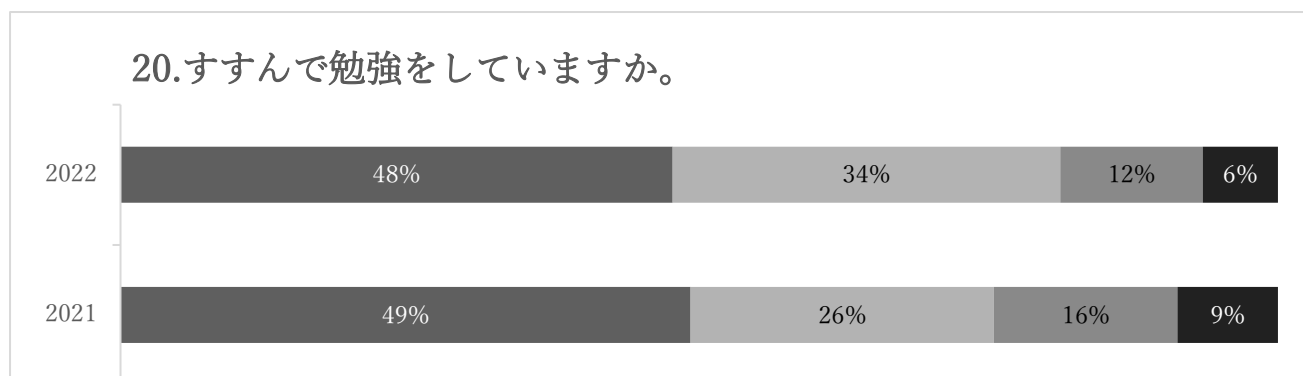
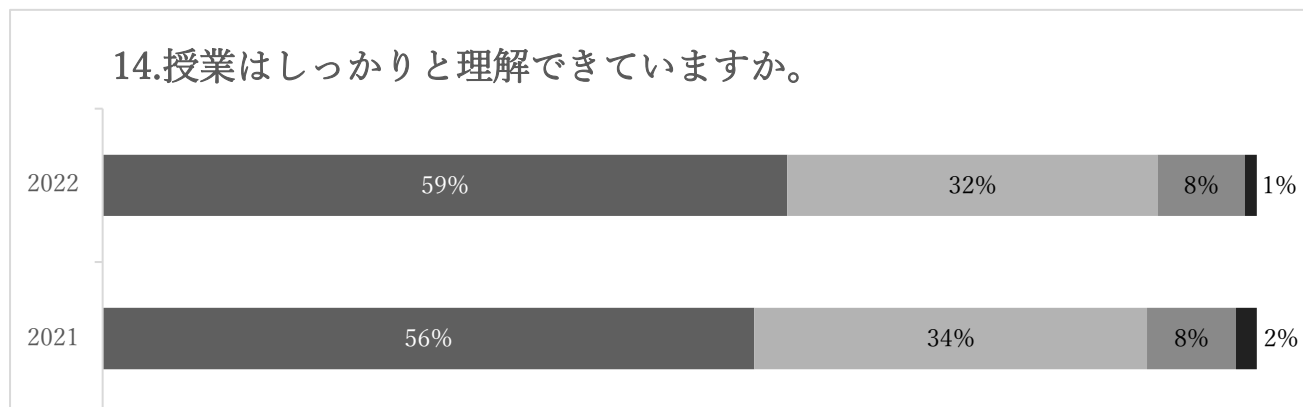
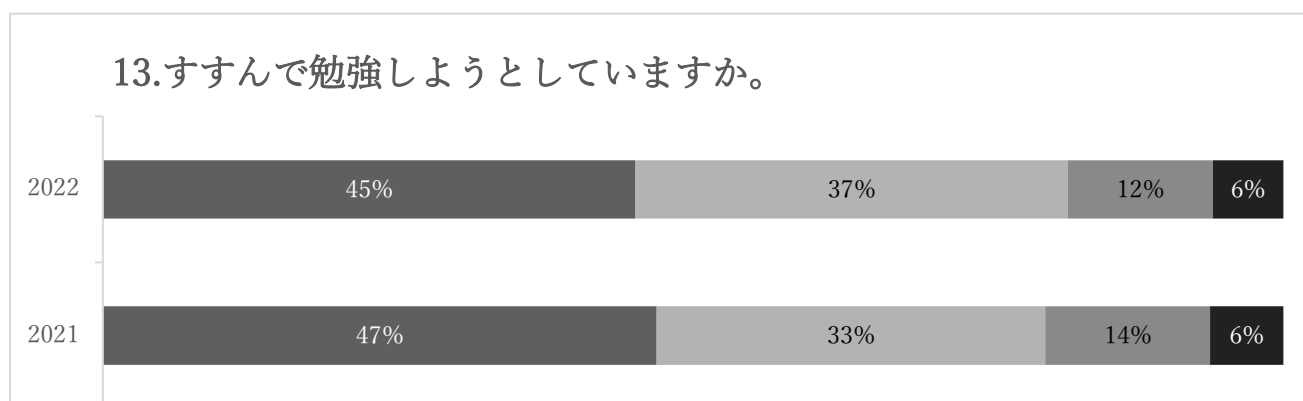
昨年度と同程度で90%以上の児童が肯定的な回答をしています。登校時は1列になり、登校班長中心に登校できていることは大変立派です。しかしながら、下校時や放課後・休日には、交通事故につながりかねない事案や、地域の方から交通マナーの悪さを指摘されることもあります。そういった状況の中で、今年度からコミュニティ・スクールがスタートし、地域の方々が子どもたちの登下校を見守ってくださる取組が始まったことは、大変有難いことです。自他の命を守る行動がとれるよう、家庭や地域と連携した安全教育を進めていきます。

◇読書への関心についての設問です。



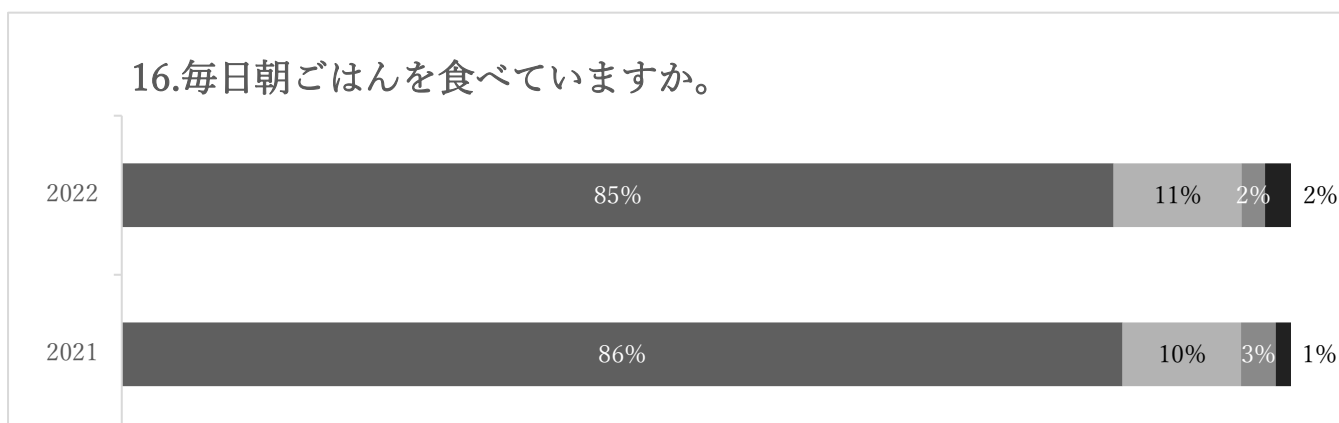
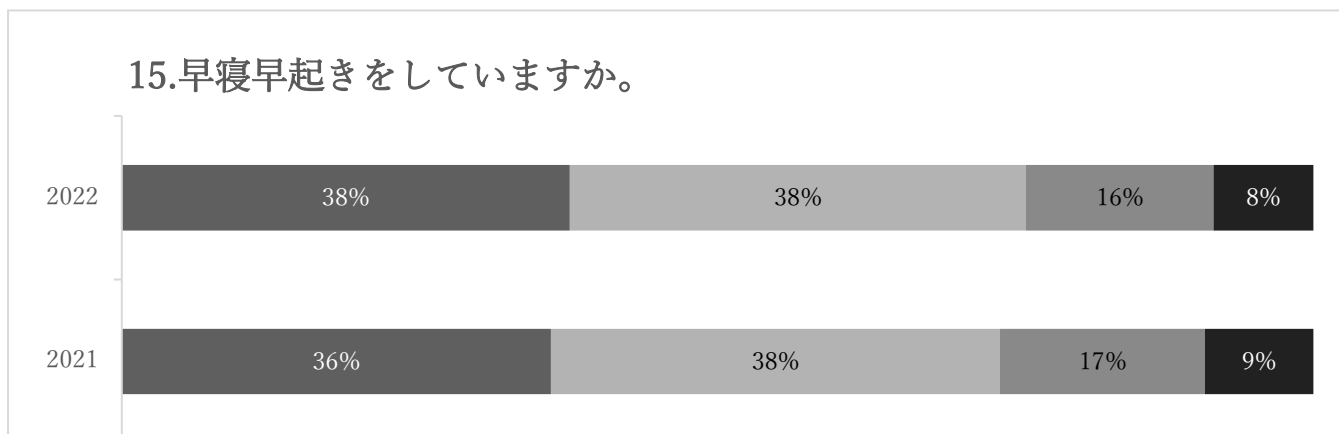
全校での読書活動が推進されていることが、分かる結果となりました。本校では朝の「おはなし会」、中休みの「トトロの森」といった読み聞かせボランティアさんが長年にわたり活動続け、子どもたちに本の世界の楽しさを伝えてくださっています。また、学校図書館司書が季節や生活に合わせた本の紹介や読書週間の読書推進活動、また学習における図書館活用も図書担当教諭や担任と連携し行っています。さらにコロナ禍では図書委員会児童が動画を通して読み聞かせを行うなど、本に親しむ機会を提供しています。こういった、児童・教職員・地域の方の継続した活動により、学校図書館が子どもたちの大好きな場所になっており、貸し出し数も年々増加しています。知的な好奇心を満ち、豊かな心の育成にも欠かせない読書を、これからも多くの子もたちが楽しめるよう取組を工夫し継続していきます。

◇学習意欲についての設問です。



まず、うれしい結果となったのが設問14 授業の理解に対する設問の肯定的回答の向上です。この設問については3年連続で評価が向上しており、「みんなでわかる授業づくり」の取組の成果と捉えます。授業が分かるから勉強が楽しい、進んで勉強したいという好循環が生まれるよう、まずは「わかる楽しさを味わえる授業づくり」を継続していきます。

◇家庭での生活習慣についての設問です。



生活習慣については、ここ数年結果に大きな変化はありません。朝食に関しては喫食率が高く、学校生活を元気にスタートさせる生活が整っていることに安心しています。睡眠については年齢が上がるにつれて、乱れていく傾向にあります。要因としてはゲームやネット等に多くの時間を費やしてしまうことや、塾や習い事による就寝時刻の遅れなどが考えられます。小学校時代は心身の基礎をつくる大切な時期です。生涯にわたって自身の心身の健康を保てるよう、家庭と学校が連携し、生活習慣の確立に努めていくことが大切だと考えます。

以上が今年度の学校評価アンケートの結果と考察です。

アンケート結果を踏まえ、今後も教職員一同より良い学校づくりを進めてまいります。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。



©ざまりん